

## 中間評価報告書

畜産酪農技術センター試験研究評価委員会

平成30年8月21日(月)

研究種別	重点化課題	
研究課題名	肉豚の格付け成績向上を目指した厚脂改善技術の確立	
研究期間	平成29年度 ~ 平成31年度	
	評価項目	平均点
1	研究計画の進捗度	4.2
[コメント] 計画通り順調に進捗していると判断します。  格付向上のため、厚脂対策技術を確立することは、養豚農家の収益性向上のために、重要な課題と位置づけられる。  昨年度の試験結果から、紅茶粕が厚脂を軽減する効果が高いことを明らかにできた。今年度は、この給与水準の点数を増やし、配合飼料に混合する最適な割合を決定する計画になっている。飼養成績や枝肉や肉質への影響を見ながら、技術開発に取り組むことを希望します。		

研究種別	重点化課題	
研究課題名	機能性資材を用いたブランド鶏卵の生産技術の開発	
研究期間	平成29年度 ~ 平成31年度	
	評価項目	平均点
1	研究計画の進捗度	4.0
[コメント] 想定目標以上に進捗していると判断します。  山梨県内で生産または加工される素材を用い、宿主の健全性を高め、かつ抗酸化能等の機能性を付与した鶏卵が生産できることを明らかにした。  本結果は既に養鶏農家の実証段階に入っている。今後、機能性資材の更なる選別と給与割合の検討を行うことにより、山梨県のブランド鶏卵の確立に結びつくと考えられる。		

研究種別	重点化課題	
研究課題名	甲州牛増産に向けた効率的採卵サイクルの確立	
研究期間	平成29年度 ~ 平成31年度	
	評価項目	平均点
1	研究計画の進捗度	4.4
[コメント] 想定以上に進捗していると判断致します。  早期採卵技術の確立は、甲州牛の安定供給と生産に直結する、重要な課題と位置づけられ、農家からの期待も高い内容となっている。  昨年度実施した、新しいSOVおよびTAIプログラムの結果からは、早期採卵と早期人工授精が可能であることが示された。 宿主の健全性に配慮しつつ、今・次年度と例数を重ねることで、効率的採卵サイクルを確立し、早期の実用化が望まれる。		

研究種別	県単(一般分)課題	
研究課題名	哺育管理の違いが乳用雌子牛の発育等に及ぼす影響の解明	
研究期間	平成28年度 ~ 平成32年度	
	評価項目	平均点
1	研究計画の進捗度	4.0
[コメント] 計画通り順調に進捗していると判断します。  哺乳・離乳期の子牛の飼養管理は酪農家の経験によるところが大きく、技術として確立されているとは言えない。また、この時期の飼養管理は、雌牛の生涯生産性にも大きく係わることから、哺育管理の違いが、どのように発育に影響するのかを解明することは、重要であると考えられる。  哺乳・離乳期にルーメンの発達を促しかつ繊維分解菌のような有用微生物を定着させることと、宿主の発育促進を同時に実現する技術を確立することは、実際には容易ではない。  これまでの研究結果では、クラフトパルプのような新しい飼料資源を用いながら、早期離乳や強化哺育法の比較検討を行い、一定の成果を挙げてきていることを評価する。  研究期間を延長することにより、哺乳・離乳期の子牛の飼養管理技術が確立され、マニュアル化等により山梨県内はもとより、全国的にも活用されることを期待する。		